



長野県建築士会

佐久支部

らく又

佐久の札所

第13番札所 岩崎堂跡 (遍照寺)

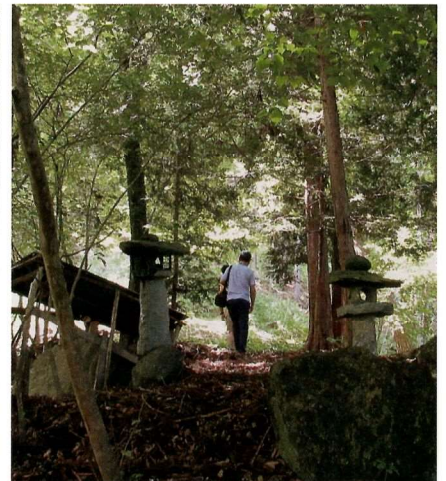
佐久市田口三分1058



岩崎観音堂は、十三番札所で、建立年月日は不明である。

1711年に山崩れ、1723年に焼失し、1773年に再建されるも、1797年に再び山崩れにより大破、1802年に改築されたが、1940年（昭和15年）に落雷による火災にて焼失し、岩崎観音堂跡として現在に至る。

焼失後十三番札所の御朱印は遍照寺でいただいたが、現在は住職不在のため14番札所の千手院にて押印してもらうことができる。



もくじ

支部長あいさつ	2
建築課長あいさつ	3
関プロ協議会に参加	4
委員会活動について	5～7
旧大沢小学校小屋裏調査	8
賛助会員の紹介	9
着任挨拶	10～11

ご挨拶

公益社団法人 長野県建築士会佐久支部 支部長
菊池 弘之



今年度も、コロナ禍でのスタートとなりました。
一旦、長野県では感染者0人が数日続きこのまま終息に向かうのか？の安易な考えを大きく裏切られ、桁違いの2000人台の感染者が数十日続いております。

各委員会の皆様も、事業を計画され案内の配布を行って頂いた後にやむを得ず、延期となり…。

今後、数ヶ月後には、終息の見込みが出るのやら、この数年間で飽きたと言いますか、慣れてしまった気配があります。

話は逸れますが、長野県北部の栄村に極野という地区があります。

栄村中心部より県道117号線を東に進み、一旦新潟県の津南町に入って再度長野県に入り南下し車で20分程の距離にあるこの地区は、夏にはこの先の秋山郷への続く道路はありますが、冬は豪雪地帯なので、道路は雪で閉鎖になり、この先は進めない極地の野原から極野となったと推測します。栄村に営業所がある、竹〇組の方は読めると思いますが、普通は『キョクノ』・『ゴクノ』・『キワノ』ですよね。答えは『にての』です。

極は、これ以上ない事・至高・きわみ・最果て、の意味から建築現場でも足場とか、梁・母屋の頂部も極野（にての）の一部と考えております。

日頃の作業で危険な場所で仕事をされている方も多くいらっしゃると思いますが、慣れることなく『にての』の言葉を思い出して、安全作業をお願い致します。

コロナも、此処まで感染が広がっているので、何時・誰が感染しても、不思議ではない状況と考えます。

症状も以前に比べると比較的軽症の話聞きます。

ですが、慣れることなく、ご自愛ください。

さて、手紙のような文章になっておりますが、今年度の主な予定は、近々の開催より

9月16日：三団体ゴルフコンペ

9月21日：第1回実務講習会（改修解体に伴う石綿含有建材の取り扱いについて）

10月8日：旧大沢小学校小屋裏調査報告会

10月23日：ウッドクラフト

11月5日：建築士フォーラム（上田・高砂殿）

11月25日・26日：三団体視察研修旅行

来年2月頃：新年講演会

HPのリニューアル

又、支部長選出検討委員会からの報告も、今年度中と聞いております。

引き続き、ご協力・事業ご参加の程、宜しくお願い致します。



着任のご挨拶

長野県佐久建設事務所 建築課長
三好 由美子



本年4月に佐久建設事務所建築課に着任しました三好由美子と申します。

長野県建築士会佐久支部の会員の皆様には、日頃から長野県の建築・住宅行政に多大なる御支援・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

佐久地域での勤務は、初めてとなります。4月当初は、国道18号と高速道路を基準に、市町村の庁舎も地図を見ながらたどり着く状態でした。3ヶ月以上が経過し、道や地名もだいぶ覚えられたのではないかと思います。

さて、令和4年度の長野県が実施する建築・住宅事業ですが、「**育まれた資源を次世代に引き継ぎ、持続可能な地域社会をめざして**」を基本理念に、施策展開をしています。平成14年から続く「**住宅・建築物耐震改修総合支援事業**」をはじめ、優秀な木造建築物を表彰する「**“信州の木”建築賞**」（ご応募いただきましたでしょうか？）や、「2050ゼロカーボン」の実現に向けて断熱・省エネルギーに配慮した住宅の新築・リフォームを支援する「**信州健康ゼロエネ住宅普及促進事業**」などを実施しています。

信州健康ゼロエネ住宅普及促進事業の「**新築タイプ**」は、昨年度まで実施していた環境配慮型住宅助成金よりも高い断熱性能が要求され、建築基準法で定める壁量の1.25倍が要求されるなど書類作成にも手間がかかるようになりました。が、助成額が最大150万円になりましたので、積極的にご利用いただければ、と思います。

「ゼロカーボン」といえば、建築物省エネ法も改正され、令和7年度には全ての**新築建築物**は、省エネ基準への適合が義務となります。同時に、確認申請の審査においても、「4号特例」が廃止されます。建築物の設計や確認申請を取り巻く環境が、大きな転換期を迎えるとも言えるのではないのでしょうか。具体的な手

続きや基準は今後の政省令を待つこととなりますが、行政として審査体制を整えていくには、3年は決して十分な時間ではありません。今年度から準備が必要ではないかと考えているところです。

もっとも、社会全体の“ゼロカーボン”は、建築物の断熱性能を上げ、設備を省エネタイプにするだけでは実現できません。まちの集約化や、産業構造の転換も必要になってきます。

数年前、まちづくり大学院に通っていた時、BELS関連の授業で先生に質問したことがあります。「断熱性能を高めた住宅でも、最寄りの商店まで車で30分かかるのでは、郵便や宅配の車両が使う燃料や、電気・水道のインフラ整備を考えると、省エネではないのでは」と。それに対する講師の回答は、「建築物の立地条件を考慮した評価方法は、検討されているが条件の設定が難しく、実用化に至っていない」でした。「検討されている＝同じように考えている人がいる＝方向性は間違っていない」と前向きに捉えています。

“ゼロエネ建築物”は、持続可能な社会を作る手段のひとつではありますが、その効果は計り知れません。建築行政に携わる者として、建築物を中心にした持続可能なまちづくりに寄与できないだろうか、と考えて日々の業務に携わっています。←そう思うなら、「長野市から高速道路を使って通勤するのを止めて佐久に住め」との声が聞こえてきそうですが、住居が2ヶ所になれば冷暖房費が増加するので、それとの相殺ということでご容赦願います。

最後になりましたが、建築士会佐久支部の益々の御発展と会員各位の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、会報「ちくま」第67号の発刊に寄せて、新任の挨拶とさせていただきます。

関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会2022長野大会の報

青年女性委員会 副委員長 **市川 将明**

6月18日に開催されました関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会2022長野大会に参加をさせて頂きましたので報告させて頂きます。

まずは、開催にあたってご尽力頂きました実行委員会の皆さま、そして何より私たち佐久支部を代表して実行委員会へ出向頂きました皆さまへ、本業があるにも関わらず、時間を使い成功に向けてご尽力頂きました事に敬意と共に感謝を感じる、そんな大会でした。

関ブロ長野大会というフレーズは随分前から聞いてはいましたが、正直、特に意識することはなかったのですが、開催の数ヶ月前に第一分科会の司会を依頼された事で急に自分ごととなってきました(笑)

私たち佐久支部が担当する第一分科会は、各地の青年女性委員会の活動報告をする場であるためスムーズな進行が求められる一方、単調になりがちな進行において如何に面白さを提供できるのか。が最大の目標であると私たちは考えました。こうした目標の達成に向けて私たちは、頻繁に、そして当たり前のようにe-cube一級建築士事務所に入り浸り、多くの議論を重

ねながら進行の軸ともなるシナリオの作成や、オダ局イン開催であるからこそその見せ方や伝え方に関し、仕事以上の情熱を注いできました。

会場には前日入りし、入念な現地確認を経て、の原いよ大会への緊張感が増してきたため、夜には各々から集まった同じ長野県内の青年女性建築士と共に紐たを深め、高まった緊張を和らげるだけではなく、翌の大会を忘れるぐらい仲良くして頂きました。 員長そんな夜の影響は翌朝の集合時における顔色を隔と、と一目瞭然であり、午後から始まる本番への緊張感をいうより、危機感は最高潮に達しました。本番でラッたち佐久支部は各自の役割を完璧にこなし、バス動が科会であったのではないかと思います。

この大会を通じて感じた事は、同じ世代の仲間とて事などの利害関係を離れてつながる事で、ただたか嬉しい、笑いが絶えない、そんな時間であったと思います。佐久支部同士だけでなく、長野県内の建築士副委とも名刺交換もしていないのに、次会えば気楽に計じる仲間ができた事は、普段、建築を築く私たちに、れが間関係という大きな財産を築くことを教えてくれます。



関ブロ長野大会 ズク出しているー

//////////////////// 令和4年度

新年度の委員会活動について

総務企画委員長 上原 啓二 //////////////////////

昨年度に引き続きまして総務企画委員長を務めさせていただくことになりました、御代田・軽井沢地区の上原と申します。支部長をはじめ、副支部長、委員、事務局の皆様と協力しながら本年度も事業を進めてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

さて、本年度の総務企画委員会の事業についてですが、三団体合同研修旅行、緊急災害時連絡網の整備、新年講演会の実施が主なものとなります。また、総務企画委員長として支部長選出検討委員会に参加し、文字通りですが支部長の選出方法についての検討を行っています。

昨年度、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった三団体合同研修旅行は本年度も建築士会が担当し実施することになりました。コロナの感染状況等を注視しながら11月頃を目処に一泊二日で計画いたします。

緊急災害時連絡網は、災害時に県・市町村との協定に基づいた被災建築物応急危険度判定を実施する際に重要な連絡網ですので、実情に合わせた更新を毎年行っています。

年明けには新年講演会を予定しています。昨年度は開催の一ヶ月ほど前から急激に感染が拡大し中止となってしまいました。今年は感染が落ち着き無事開催出来ることを願っています。

総務企画委員会はリモート会議で打合せを主にこなしています。リモート会議は会場の準備や移動の時間を気にする事なく会議ができるため便利に使わせてもらっています。リモート会議が普通に行われるようになったのはコロナ関係で唯一自分にとってプラスのことかもしれません。

7月中旬を過ぎた頃から急激に感染者が増え、第7波かもしれないという声も聞こえてきます。マスクや換気等の感染対策の実施やワクチンの接種も進んでいる事ですし、そろそろ感染状況も落ち着き普通の生活が早く戻って欲しいものです。

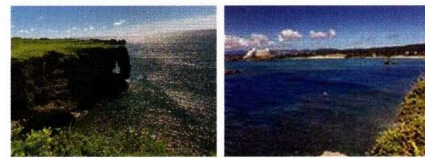
何かと不慣れな部分も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが本年度もよろしく願いいたします。

//////////////////// 令和4年度

「今年こそ やろうじゃないか」

教育事業委員長 大町 栄一 //////////////////////

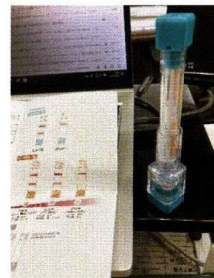
次々と変異し感染力を強める、新型コロナウイルスの対応力には脅かされるばかりです。5月下旬から6月下旬にかけて沖縄へ会社創立100周年記念旅行に毎週5班に分散して行ってきました。ここ2年程旅行や宴会が規制され社内間においてもコミュニケーション不足で初めて顔を合わせる人もいて、最初は緊張気味でしたが酒も入り、信州ではお目に係れない紺碧の大海の元、大いに親睦を深めることができました。やはり「旅行や飲み会、宴会はやるべきだ！ 研修会や見学会も」と おやじは思います。



しかしながら旅行から3週間後には全国的に第7波が襲来、

されど幸いなことに誰一人感染しませんでした。全員が抗体検査を出発前と帰宅後に実施し、蒸し暑い沖縄でもマスクを外さず（本当ですか？）、感染対策を怠らなかった結果でした。と言うよりタイミングが良かっただけかもしれませんが…。

教育事業委員会に置いて、新型コロナウイルスの感染状況によりイベントを何遍となく中止したり、延期したりと思うように研修会、講習会、見学会が開催出来ておりません。研修会「改修・解体に伴う石綿含有建材の取り扱いについて」などは法律施行日前に実施する予定でしたが、遅延されたことによる情報不足もあったのかは不明ですが、実際の業務に思わぬ支障をきたした事例もあるようです。



今年度の子定としては、順延されている前述の石綿含有建材取り扱い研修会、はやぶさ2で話題となったJAXA美笹深宇宙探査地上局見学会をはじめ、新たに施設設備の除菌・加湿コントロールシステムの講習会、小諸旧本陣改修工事見学、軽井沢町三笠ホテル改修工事の見学会など情報を集めて、微力ながらも会員の皆様のお役に立てるように感染予防を徹底しつつ、コロナウイルスにめげずに頑張ってお活動していきたいと考えております。毎回お願いですが、皆様からの「こんな研修会、講習会をやってもらいたい、気になる建築物があるので見学会を設けてもらいたい」等の希望並びに情報がありましたら、ぜひ当教育事業委員会にお声がけください。

令和4年度

今年度のウッドクラフトについて

地域貢献委員長 小泉 正樹

私達、地域貢献委員会では委員会活動のひとつ「ウッドクラフト」を今年は参加者対面での本来のかたちでの開催とする事が決定致しました。

新型コロナウイルス感染拡大を避け一昨年、昨年とZoomを利用したリモートでの開催を余儀なくされましたが、先頃のウッドクラフト開催方法についての委員会では、出席委員ほぼ全員が基本的に対面での開催を希望していた事と、委員会開催時新規感染者の傾向が落ち着いてきていた事が理由です。

しかしながら委員会後のこの原稿を書いている現在、再び新規感染者数が全国的に増加傾向に転じ、各都道府県でも新規感染者数が過去最高を更新しています。そんな現状ではありますが、コロナ禍前の日常を取り戻すべく委員会としても一層の感染対策をとりつつ、より安全な開催に向けて準備を進めて参ります。

つきましては会員の皆さまのご理解ご協力を宜しくお願い致します。



令和4年度

委員会活動について

情報広報委員長 両川 正

新型コロナ禍が、予防対策で活動を制限されていた今まで状況から、身近な人の感染によって人員の不足等の現実的な問題に変わって来て、1段階み込んだ局面となった感があります。

そんな中、皆様におかれましては、対策を取り邁進の事とお喜びを申し上げます。また、会報ちくまの原稿執筆を下さる方々には、深く感謝申し上げます。

昨今の委員会では、会報ちくまの発行の遅れが出たりと、苦戦しております。私が委員長になる前にこの委員会では活動しておらず、落下傘部隊の様な委員長で、そこに新たな局面と変わった現実的なコロナ禍と、コロナ禍の中、リモートオフィスで仕事が出来た事を知った人々の移住が多く、御代田・軽井沢の建築ラッシュによる職人の不足も重なりまして、委員会活動が基礎から押し流されている感があります。また、記事を執筆して下さる皆様も、建築士会の活動が縮小しておりまして、当然の事ですが、執筆する事項が無いとのお返事を頂いたりします。

それでも、委員会活動を滞りなく進める為に、副委員長の櫻井氏を会報ちくまの担当とし、ホームページは副委員長の大竹氏に担当をお願いし、時間的遅れがなき様に進めたいと考えております。

その他、委員会も高齢化が進んでおりまして、若い方のご参加が期待されております。会員の皆様で、紙面構成やホームページ制作にご興味のある方は、ご参加くだされば助かります。ご連絡をお待ちしております。

近々にホームページの原稿と写真を関係者各位へ依頼する予定でおります。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

また、ホームページ制作にあたり、お知恵をお持ちの会員の方は、進言頂けたらと存じます。



表紙撮影会

//////////////////// 令和 4 年度

青年女性員会の活動について

青年女性委員長 **飯田 智** **////////////////////**

先日、子供たちが「ミニオンズ」の映画を見ていた。一緒になって楽しく見ているとこんなフレーズが聞こえてきました。「ミニオンズは、常に強いボスを求め、その下で動くことで存在を確立してきた」と。…

今までの自分（ミニオンズ）は指示されたことで動き、与えられた居場所でいかに自分がやっている感を出して動いてきたのかという事を考えさせられた。

歴代の、委員長の皆さまに改めて、敬意と感謝を表現したいと思うフレーズでした。皆様どうやって色々な活動してきたのだろうか？（大忙し…）

2年目に突入した青年女性委員会ですが、5月28日（土）に信州大学工学部建築学科・梅干野研究室と旧大沢小学校の小屋裏調査を行いました。今回は大沢地区文化財保存会の永井様のご理解のもと、小屋裏に足場を用意させていただき、見学兼調査を行う事ができました。上田情報ビジネス専門学校の生徒の皆様、建築士会佐久支部の会員、大勢の方のご参加いただき本当にありがとうございました。



小屋裏調査風景

6月18日（土）は、関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会長野大会

大会テーマ『再生～ずくだせ建地区士～』が開催されました。昨年度の茨城県大会に引き続きリモートでの開催となりました。佐久支部の佐藤成暁副委員長・鎌田賢太郎前委員長が第一分科会の担当でしたので、各都県の発表の進行を行いました。リモート開催という事もあり、各都県より動画での発表となりました。

市川将明副委員長・齊藤絵美副委員長の楽しい名司会、柳澤洋介副委員長・小林千恵さんのナイスADで、佐久支部一丸となって、盛り上げることが出来ました。各都県発表での優勝は山梨県・第二位は神奈川県でした。

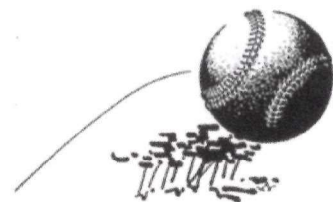
今大会では多くの企業様に協賛いただきました。紙面をお借りし、改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

7月8日には久しぶりの暑気払いを行いました。新しい仲間も含めビールを飲みながら楽しいひと時を過ごすことができました。

コロナの騒ぎの中、集まる・会う・出かけるが制限され、また自分もそこに臆病になっています。ですが、人と人が逢う「であい」がすべての物事の始まりだと感じますので、引き続き「であい」を大事に活動していければと思います。青年女性委員会の活動参加者を募集しています。みんなで「ちむどんどん」しよう!!!



全員で記念撮影



旧大沢小学校小屋裏調査

上田情報ビジネス専門学校 建築学科

櫻井 玄

今回、旧大沢小を見学できたのは、とても幸運でした。自身の住む地域であっても、歴史的建築物を見られる機会はそう多くありません。それどころか、知らずにいるものの方が多いかもしれません。

地元の木を加工して使い、細部まで考え抜かれた構造とデザインを全て人力で造られたというのは、今を生きる私には測り知れない労力とドラマがあったのだろうと感じました。

小屋裏は圧巻でした。といっても、知識不足で、私には少し難しかったです。それでもあの建物の価値の少しは感じ取れたと思います。

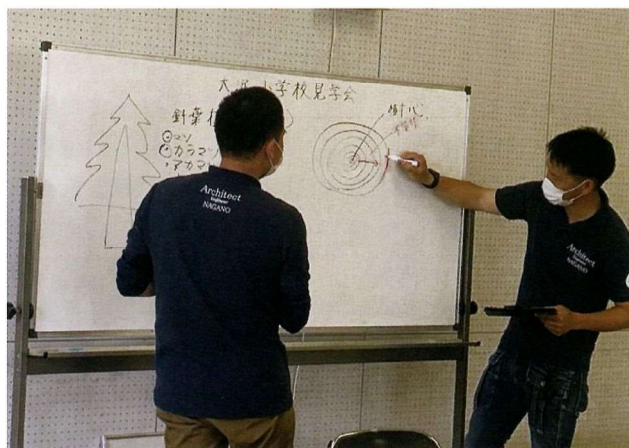
構造とは別に、照明や家具などからも、多くのことを学べました。手すりや窓のデザインなど、職人の方々の想いも感じられました。

今回、見学したことを糧に、今後の私の設計に活かしていきたいと思います。

上田情報ビジネス専門学校 建築学科

松藤 紗花

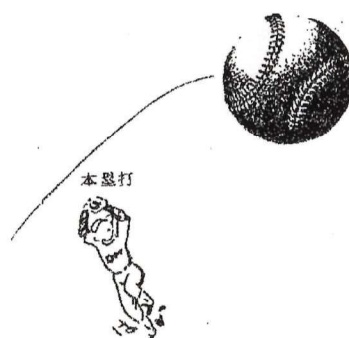
旧大沢小学校を隅々まで見学して感じたことは2つあります。1つ目は学校全体が昔のまま美しく残っていることへの驚きです。下見板張りが綺麗に保存されていたり、一度はアルミサッシに変えられたのに、木枠を保存しておいて変更できるようにしておいたことが本当にすごいと思いました。階段の美しさにも魅了されました。2つ目に、旧大沢小学校を構成する木の偉大さがとても印象に残りました。小屋裏見学で大きな梁や小屋組に使用されている丸太の太さや大きさは今では考えられない程に立派で虫に喰われて傷みも全くという程に見えない丸太は素晴らしいものでした。小屋組を生で見させていただくこと事態初めてのことであったのでとても良い経験でもあり、昔の建築の偉大さを知る良い機会でした。学校全体が自分を知識や学びを広げる素晴らしい建築でした。木の良さや美しさに気付けた良い機会でした。



木になる授業風景



学生さんによる魅力発表



賛助会員の紹介

YKK AP株式会社

長野県建築士会佐久支部会員の皆様には、平素より格別のお引き立てを頂き、厚く御礼申し上げます。

弊社は1959年にファスナー製造で身につけたアルミ素材に対する知見を生かして事業を始めました。

以来、時代ごとにお客様のニーズに応え、また、市場がまだ気付いていない価値を提案する商品を開発・供給し続けています。

「善の循環」- 他人の利益を図らずして自らの繁栄はない- というYKK精神を事業活動の基本として、その精神を継承し「窓」をはじめとした建築用プロダクトを通して健康で快適な暮らしを提供することが私たちYKK APの使命です。

これからも皆様に喜んでいただける商品を提供していきます。

2021年には新たにYKK APの存在意義を表す「Purpose (パーパス)」を策定しました「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」という言葉は、事業を通じた社会貢献、社会課題解決への決意でもあります。

この想いをYKK APグループ全社員で共有し“社会を幸せにする”事業、商品を展開していきます。社名である「AP (Architectural Products)」にこだわり続けながら、YKK APは社会を幸せにするのできる会社を目指していきます。

最後になりますが、長野建築士会佐久支部の皆様のご活躍、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

Architectural Products
社会を幸せにする会社。
We Build a Better Society Through Architectural Products

熱貫流率 0.90 W/m²・K

最大断熱性能+40%向上 (1653サイズ)
・ダブルLow-Eガラス/ガス / ニュートラル / アルゴンガス入

窓が連れてきたのは、新しい暮らしでした。
樹脂スペーサーは、トリプルガラスへ、APW 430

壁になじみ、目立たず窓際をデザインする25mmの新しい樹脂スペーサー
樹脂スペーサーは、窓の断熱性能を向上させ、結露防止効果も発揮します。また、アルゴンガスやLow-Eガラスと組み合わせると、断熱性能がさらに向上します。

賛助会員の紹介

竹花工業株式会社

土壌を安定させる「信州Fソイル」

竹花工業(株)は砕石・生コンクリート事業も手掛けており、近年は環境への取り組みとして、産業廃棄物のリサイクルにも力を入れている。生コンの材料となる砂を洗浄した際に出た泥を埋戻しの材料として活用している。

今回紹介するイチ押し製品の「信州Fソイル」(残渣式流動化処理土)(登録商標出願中)

その特長は、埋戻し箇所に流し込むと隙間を埋め、一定時間が経過すると周辺の土と同程度の硬さに変わることで、土壌を安定させる所にある。

従来の埋戻し作業では、空洞化や陥没防止のために20~30cm埋め戻す度に転圧作業が必要であったが、この製品を利用することで作業の大幅な省力化につながる。さらに、配合を調整することで、埋戻し後の土の強度を自由に調節することができ、容易に再掘削できるという利点もある。

長野県で初めて製品の製造・販売を開始

「流動化処理土」は、「建設副産物の発生抑制・再利用技術の開発」の一環として技術開発が進められ、全国の建設現場で利用されてきたが、県内では製造拠点がなかったことや、県外から流動化処理土を輸送するコストがネックになり利用は進まなかった。

こうした中、当社は残渣式流動化処理工法の特許を持つ会社の技術指導を受け、製造の受託契約を締結。2021年12月に、小諸市にある自社の生コンプラントに県内で初の残渣式流動化処理土の拠点を整え、製造・販売を始めた。現在は東信、北信、中信地域を販売エリアとしている。

今後、社会インフラの多くが老朽化する見通しであり、特にガス、上下水道の工事には地盤沈下のリスクを低減させ、コストの圧縮が可能な「信州Fソイル」の利用促進が期待される。



着任のご挨拶

長野県佐久建設事務所建築課 主査 阿部 康一



4月から佐久建設事務所建築課に赴任しました阿部康一と申します。よろしくお願ひいたします。

前任地は県庁の財産活用課という部署で、県有施設の長寿命化や省エネ改修、ユニバーサルデザイン改修、浸水対策等の業務に携わっていました。県有施設の老朽化の状況を目の当たりにし、しっかりとお金をかけて、建築物の予防保全を進めることの大切さを実感することができたのは貴重な経験です。

現地機関での業務は平成23年度まで、当時の上田地方事務所建築課で勤務して以来ですので、本当に久しぶりです。その間、法律の改正等により、業務の内容が増えたり変わったりしており、その状況を把握するだけでも一苦勞です。

担当エリアが軽井沢町ということもあり、県内外を問わず、毎日多くの相談者の方がお見えになり、なかなか落ち着いて仕事に取り組むことはできませんが、少しでも会員の皆様や地域のお役に立てるよう、努力したいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

さて、私事になりますが、出身は小諸市で、高校まで佐久市内の学校に通っていたこともあり、佐久地域は地元になります。とはいうものの、長いこと佐久地域から離れて生活していたため、特に佐久平駅の周辺など、開発が進み、大きく風景が変わっているのを見て驚くことも多くあります。

その一方で、浅間山や千曲川など、佐久地域のシンボルともいえる雄大な自然の風景は昔のままで、見るたびに、地元に戻ってきたのだと、ほっとする感じがします。特に、浅間山は、若いころはあまり気にしませんでしたでしたが、眺める場所や季節によって、表情が大きく変わり、とても興味深いです。故郷である小諸からの眺めとはまた一味違う浅間山を、職場のある佐久市や、完了検査に出かけた軽井沢町から眺め、とても新鮮に感じています。

変わる風景の中で変わらないものの重要さや、様々な角度から物事を見ることの大切さ等、浅間山から学

んだこれらのことを、仕事にも生かしていきたいと考えています。

法律や制度が変わって、何が正しいのかわからなくなりそうなきも、法律の制定の背景や、改正の経緯を考えると答えが見つかりやすいことがあります。法律に基づいて審査を行う以上、法律に書かれていることをしっかりと理解することはもちろん重要ですが、何のための規制なのかという本質を見失わないよう、気を付けたいと思います。

また、建築は様々な立場の人が関わることの多い分野です。建築主の立場、設計者、施工者の立場、利用者の立場等、それぞれの立場に立って考えたり、相談に乗ったりすることはとても難しいことではありますが、行政の立場だけで物事を判断するのではなく、少しでも、見る角度を変えて考えるよう心掛けたいと思っています。

久しぶりの現地機関の仕事にまだ慣れないなか、会員の皆様にもご迷惑をおかけしている部分も多くあるかと思いますが、少しでも成長できるよう頑張りますので、何卒よろしくお願ひいたします。



浅間山

着任のご挨拶

長野県佐久建設事務所建築課 技師 内山 雄基



4月より、佐久建設事務所建築課に配属となりました内山雄基です。担当地域は御代田町、小諸市、立科町で、他にリフォーム補助金等を担当しています。

私は昨年まで民間企業で働いていました。大学卒業後に就職した設計事務所では、主に公共施設のプロポーザルや設計を経験し、その後就職した工務店では、主に住宅の設計と現場管理をしていました。建築の仕事に携わって9年が経ちましたが、建築行政の仕事は今までの仕事と必要な知識面等で違う部分が多く、知識不足や経験不足から皆様にご不便やご迷惑をお掛けしており申し訳ございません。早く仕事に慣れるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

出身は須坂市で、高校は長野市、大学は神奈川県で、結婚してからは長野市に住んでいます。今は佐久合同庁舎近くの職員寮を借りて単身赴任中です。週末には長野市に戻る生活をしていることもあり、まだまだ佐久地域の土地勘が無く、検査等で街に出ても見慣れない風景ばかりといったところです。佐久地域は長野県内でも特に建築が活発な地域です。これから佐久地域の魅力を沢山見つけて、家族を案内したいなと思っています。

また、私は昔から建築を見るのが好きで、カフェを巡ることが趣味の一つです。担当地域が小諸市ということもあり、前から気になっていた小諸市のカフェに先日行ってきました。お店自体とてもいい雰囲気でしたが、そこで店主らしき男性とお客の会話で、「この地域をもっと盛り上げていきたい。」そんな会話が聞こえてきました。そんな熱い思いを耳にし、私も微力ながらこの地域の発展のため尽力したいと改めて思いました。

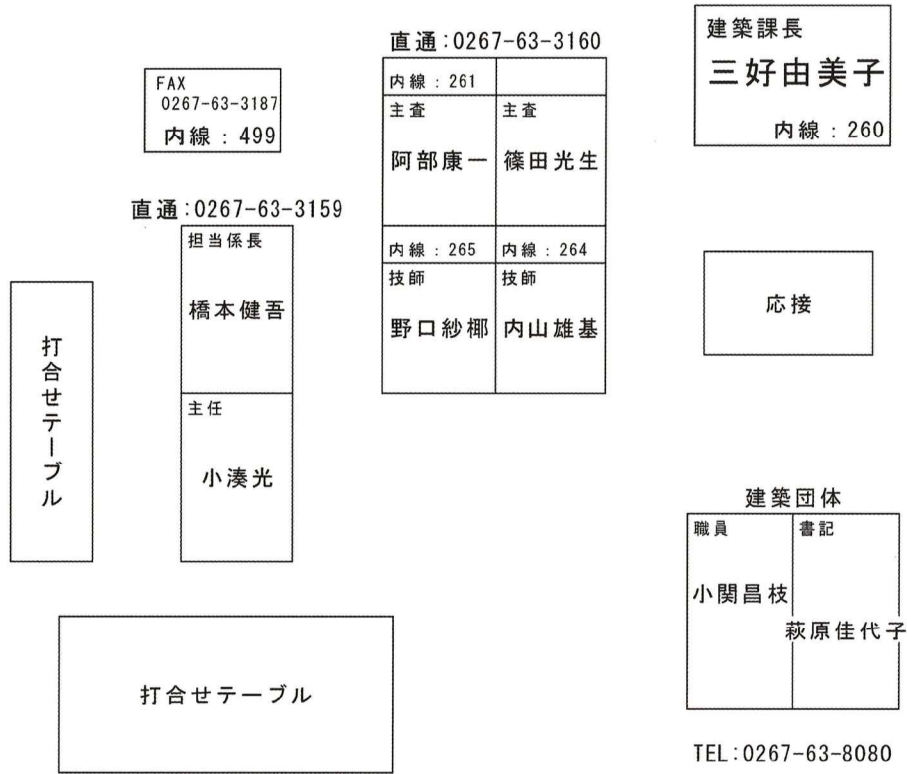
最後に長野県建築士会佐久支部の会員の皆様の今後のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、着任の挨拶とさせていただきます。



雲場池



佐久建設事務所 建築課 配置図



***** ●編集後記● *****

まず、会報「ちくま」67号の発行予定が遅れたことを、お詫び申し上げます。

上昇…等々。

世の中は悪い話ばかりで、新型コロナ禍による長期の経済低迷、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻、東京オリンピック・パラリンピックをめぐる汚職事件、旧統一教会と政治家の癒着、北朝鮮の度重なるミサイル発射、1990年以來の急激なドル高円安と物価

さらに衝撃的なニュースは、「日本はどんどん貧乏な国になって、ほぼ30年間給料が上がってない」らしい。経済協力開発機構（OECD）が公表した世界の平均賃金データによると、2020年の平均賃金トップはアメリカ、2位がアイスランド、3位ルクセンブルクと続いて、日本の平均年収は35カ国中、22位でした。

会報『ちくま』第67号 2022/10

発行者：(公社)長野県建築士会 佐久支部
情報広報委員会

事務局：〒385-8533 佐久市跡部65-1
佐久建設事務所内
TEL 0267-63-8080
FAX 0267-63-3330
E-mail: ken8080@seagreen.ocn.ne.jp
支部HP <http://www.aba-saku.com/>

印刷：ヨダ印刷サービス株式会社
TEL 0267-22-3330

それでは、と明るい話題を探してみたが、エンゼルス大谷翔平選手の次期年棒約43億円、外務省が出す「感染症危険情報」のレベル引下げにより渡航自粛を要請する国はなくなり、コロナ禍のため自粛していた地域のお祭りが3年振りに開催、佐久平駅南の再開発地域では分譲マンションが即日完売…など。

新しい生活様式と言われて、テレワークの推進や働き方改革が提唱されているけど、せめて変化changeを一字変えて挑戦chanceと捉えたいですね。

(M. O.)
